

市芦救援会通信

市芦救援会通信 通巻106号 01/06 <1部100円> 発行人 玉本 格
市芦救援会 〒659-0001 芦屋市剣谷9 市芦分会気付 0797(32)1131
市芦反弾圧闘争を支援する会 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-3-16 テーラービル3F

盛り上がった6・1街頭署名と街頭宣伝 市芦の存続を求める署名活動始まる

去る三月二十六日に市教委は「半年を目途に市芦廃校スケジュールを策定する」と発表した。これに対し、市芦卒業生、市民、教員の有志の呼びかけで「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」が結成され、市芦の存続運動が展開されています。

存続運動は、「市芦の存続を求める市民の会」の署名活動に、個人や団体が幅広く参加する形で進められています。「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」が中心となり、市芦の教職員組合、その上部団体である兵庫高教組、兵教組芦屋支部、解放同盟芦屋支部、全通労組、市民がつくる芦屋会議などの諸団体がバックアップし、市芦高校仮設住宅に住んでおられた被災者の方々、強制配転先で知り合った方々、みんなの家の家など障害者運動を続けてこられた方々など、市芦救援会の運動の中で細々とつなぎ合わせてきた市民の小さな力も寄せ集めて、存続運動は力の限りを尽くして展開されようとしています。

六月一日の「市芦の存続を求める」街頭署名と街頭宣伝も四〇人を超える参加を得て盛り上がりましたし、震災以後連絡の取れなくなっていた卒業生も今ようやくネットワークがつながり始めています。

しかし、芦屋市教委は、反対運動の盛り上がりを恐れて、九月末までには廃校スケジュールを作成して発表しようとしています。私たちは早急に人のネットワークを復活させ、市芦高校存続の願いがどれほど大きいものかを示す必要があります。

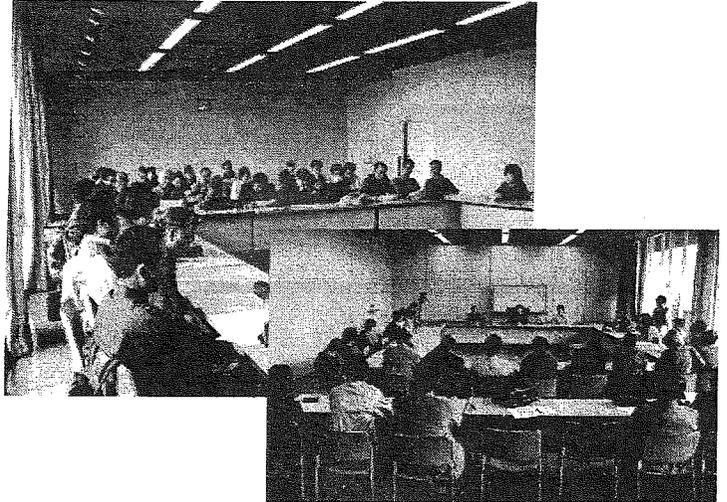
みなさん、みなさんの持てる力を全てお貸しください。市芦存続要求のネットワークをみなさんの周囲に拡げてください。そして、まもなく出されるであろう「市芦裁判」の大阪高裁完全勝利判決をバネに、市芦廃校の策謀を一気にうち砕こうではありませんか。

も／く／じ 市芦救援会ホームページ <http://homepage1.nifty.com/i-kyuenkai/>
Eメールアドレス i-kyuenkai@nifty.com

- 「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」結成・・・市芦救援会事務局・1
- 市民の会が「廃校方針撤回」要求の申し入れ・・・芦屋市高教組・・・2
- 市芦を利権がらみの土木事業の犠牲にするな！・・・市芦救援会事務局・4
- 「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」参加者の声・・・5

市芦存続を求める街頭署名！卒業生諸君、集まってください！
阪神芦屋駅周辺 7月2日 午後5時～7時（雨天順延）

「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」が結成される



四月一四日、約四〇人の市芦卒業生・市民・教員が集まって、「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」が結成された。

ある。そのためには審議を公開し、教職員、市民、場合によっては生徒からも、はば広く意見を聴取しなければならぬ。「学校（級）崩壊」が全国的な現象になって今日、そのような審議こそ市民が期待し、求めていることである。ところが審議会は、市民の関心と期待が高まることを恐れるかのように、答申を急いだ。「市芦廃校」が既定方針だったからである。廃校答申が少子化と財政難だけで説明されていることに、「はじめに結論ありき」で運営された審議会の実態が如実に示されている。

審議会本来の任務である本市の学校教育の現状と方向性を審議するのであれば、市芦の四〇年に及ぶ教育内容の総括、そこからの展望がまずもって審議されて然るべきである。市芦の存廃は然るのちに結論づけられるであろう。そのためには市芦の卒業生、在校生、保護者、教職員、そして市民の全面的な討議参加が必要である。

それがまったくなされないまま審議され答申されたのであるから、「市芦廃校」は民主主義とは無縁の一握りの人間によって仕組まれた謀略であると言っても過言ではない。かつて市芦で学び、今現在学んでおり、将来市芦で学びたいと考えている多くの人々にとつては、この謀略は誇りを傷つけ、夢を踏みこぼす暴

市芦は、進学率が上昇する中でも高校進学から取り残された生徒たちに後期中等教育の機会を保障し、子どもたちが自らの生活史を見直し、社会的立場を自覚して自分たちの生き方を見つけ出すことで自らを再生させる場所として存在してきた。しかしながら、行政や一部市民は旧態然とした教育観をもって「勉強のきかない」「不良」の学校」として市芦を見る事ができなかった。そしていま市芦は、芦屋に存在してはいけない学校として廃校にされようとしている。

市芦の取り組みと生徒たちの自立への格闘、市芦の存在意義を知る人たちは、真つ向から「市芦があつて何が悪いねん！」と主張する。これが、会の名前の由来である。

会はこの日、芦屋市教委三浦教育長・森教育委員長への抗議と申し入れ、「市芦高校の存続を求める署名」、芦屋市政や教育行政の誤りを広く市民に知らせるためのビラ配布を行うことを決めた。

市芦があつて何が悪いねん！市民の会 三浦清・芦屋市教育長に 抗議と申し入れ

「市芦があつて何が悪いねん！市民の会」は、結成集会での決定通り、四月二

力である。とつてつけた理由である「少子化と財政難」は、はたして正当なものであるか。

少子化の今こそ、親と子の多様で多元的な学校教育に対する期待に即していかに応えうるまたとない機会ではないか。進学率の高さを誇る学校。自由な感性、のびやかな校風を誇る学校。さまざまな違いをもった人間相互の立場を認める市民に成長する教育を重視する学校。さまざまな学校が存在してよい。多様で多元的な選択肢を親と子に示すのは公教育の使命であり、少子化の現在こそ可能なのである。市芦四〇年の歩みは、少なくともそうした選択肢の一つとして市芦が存在してきたことを証明している。市芦つぶしは多様性の否定であり、画一的で管理主義的社会づくりのための強権的暴挙である。

財政難をいうのであれば、まずなされるべきは不要不急にして利権と汚職の温床である総額数百億円の土木事業の即時中止である。年間予算五億円で満たない市芦を廃校にする理由などどこにもない。

答申は、環境・福祉・教育を軽視し、開発優先、政・官・業の腐敗した癒着構造を温存する本市の行政に荷担するといふ、きわめて政治的な宣言である。げん

〇日、代表五名が教育委員会事務局を訪れ、三浦教育長に面談し、抗議及び要請文を手渡し、約三〇分にわたって抗議と要請を行い、教育長は、今後継続して話し合いに応じることを約束した。

以下は、提出した抗議文です。

芦屋市教育委員会教育長 殿
芦屋市教育委員会教育委員長 殿
市立芦屋高等学校の廃校方針に強く抗議し、方針撤回を求める

芦屋市教育委員会は、三月二六日、学校教育審議会の答申が出されるや、待つてましたばかりに「市芦高校の廃校スケジュールを半年をめどに策定する」と、新聞発表した。

寝耳に水の発表に、私たちは驚くとともに、理不尽なる方針に激しい怒りを覚える。直ちに発表を撤回し、市民に広く公開された場で市の教育方針が全面的かつ根本的に論議されることを強く求めるものである。

そもそも審議会はこの問題をわずか三時間しか審議していない。しかも市民、関係者を排除した密室においてである。審議会は芦屋市の学校教育の点検、教育内容の充実のための審議をおこなう場

にこの間の助役による収賄事件に加担し、それにたかかった議員が率先して市芦廃校を唱えてきたのであるが、答申に同意した審議委員も同じ穴のむじなである。

以上見てきたように、学教審答申には一片の合理性もないどころか、重ねていうが本市の住民無視でファッショ的な体質を是認し、一握りの特権市民の利益を優先する構造に加担する政治宣伝である。このような答申を「最大限に尊重する」という市教委は、市民に対する謀略と暴力を最大限尊重すると表明するにひとしい。

まずもつてその非を認め、市芦廃校方針を即刻撤回せよ。

右、抗議し要求する。

二〇〇一年四月二〇日

市芦があつて何が悪いねん！市民の会

卒業生の皆さん
連絡を取り合ってください。
特に芦屋に住んでいる
友達に連絡を取ってください。
存続署名の呼びかけ人
に名前を連ねてください。
存続署名を集めてください。
連絡・問い合わせは、
市芦高校にいる吉村先生、
森村先生、神谷先生に。
電話0797-32-1131

市芦廃校反対の街頭署名活動始まる 市芦高校を、利権がらみの土木事業の犠牲にするな!

市芦救援会事務局

六月一日、「市芦存続を求める市民の会」による街頭署名活動がJR芦屋駅前で大々的に展開された。市民、卒業生、兵高教団支部、芦教組の仲間たち四〇名に上る参加者で二時間にわたり一〇〇枚もの署名を集めた。

地元の高校が廃校になるといふビラに、道行く人の関心も高く、「人が住んでいない埋立地に250億円もの金をつぎ込んで公園を作るのに、何で高校をつぶすんよ」「みんな勉強できる子どもばかりでないのに市芦がなくなったら行くところがなくなってしまう子どももいるでしょう」「市芦がなくなったらうちの子が行く高校がなくなる」という様々な意見が聞かれた。また、「私の子どもも市芦の卒業生です。母校がなくなるなんて絶対許せん」と署名用紙を持って帰ってくださった人など多くの人の出合いがあった。

市芦廃校の背景には確かに芦屋市の

去ることに他ならない。この闘いに負けるわけにはいかない。

市立芦屋高校市芦高校の存続を求め る署名運動参加者の声

「市民Aさん」

娘は2年後高校受験で家庭の事情から市芦・県芦のどちらかでないといふ高校に行かせられません。是非市芦をなくすようなことにはならないよう頑張ってください。少しでも役に立てるよう私も努力させて頂きます。

「市民Oさん」

成績優秀、進学だけが学校教育の目的ではない。市は判ついても実行できないが、今の芦屋の教育委員会のメンバーだと思ふ。二一世紀の学校教育は、子どもの知的好奇心をかき立て導く教育であって欲しい。努力の結果は各子ども毎にピンからキリまでバラエティのあるほうがよい。レベルを揃える横並びは人生に何の役にも立たないことを知るべきであると思います。友だちを大切にしたい。合いのできる子どもを育てる教育をしよう。



財政難の問題がある。今回、芦屋市助

役と一部市会議員の汚職事件が起こったが、利権と汚職の温床になった土木事業費の異常な膨張が財政難の主たる原因である。土木事業には必要不可欠なものも当然含まれているが、不要不急の土木事業を二つ指摘できる。一つは住民の反対を押し切られて行われている震災を利用した区画整理事業であり、もう一つは従来から反対運動で阻止されていた山手幹線道路のこれまた震災を利用した強行着工である。これらの事業で芦屋市の備蓄予算を使い果たし、赤字再建団体転落寸前になっている。まさに北村春江市政の失政といえる。その上あらたに、汚職で逮捕された助役が強引に誘致した埋め立て地の大規模公園整備事業が、財政難に拍車をかけた。総額約二五〇億円、利子だけで二八億円、市芦高校の年間予算四億円の七分分にあたる。

このような状況で、ここ数年、土木事業は減額どころか増額され、福祉、環境、教育関係予算は一〇パーセントづつ削られつづけている。奨学金等の修学保障に大きな影響が出ている。苦しい財政状況の中で土木事業を維持するために、経費削減の対象として目を

「市民Kさん」

教育は広く長い視点に立つべきで、企業などの効果を求めるべきではない。

「教員Kさん」

小中で勉強できない子どもたちにこそ教育が必要です。

「市民Kさん」

市民が、少なくとも一部の市民がもつとも必要とする公立高校を財政危機で学校をつぶすとはまったく論外。民主主義の基本をわきまえないファッショ的暴挙です。

つけられたのが市芦廃校であった。しかも、「勉強ができない子どもは公立高校へ来る資格がない」として生徒を切り捨て来た「教育改革」の失敗を葬り去る絶好の機会でもあった。一九八六年以来続けられてきた教育改革のこの考え方は市芦高校の生徒の存在を否定するものであったから、生徒に受け入れられることはなく教育改革は教育破壊を生み出して無残に失敗していった。だから市芦廃校は北村市長が教育委員長であった時代の教育改革の失敗を覆い隠し精算するうつつの手段であった。北村市長は教育委員会に指示して芦屋市教育審議会答申を隠れ蓑に市芦廃校を強行しようとしている。

市芦廃校の答申を出した学校教育審議会の会長が井野辰男である。井野はいわずとしたあの通信制青雲高校の教育弾圧、組合弾圧の先頭に立ってきた男である。芦屋の学教審がどのような性格のものであるかこれだけで明らかである。井野の采配のもと学教審は市芦廃校の結論を当然のごとく出した。市芦を廃校にすることによって、市芦教育のすべてを抹殺しようとしている。田中正造と谷中村ではないけれど、廃校すなわち市芦を歴史から葬り

「教員Kさん」

二〇年間近く市芦へ生徒を送り続けて、厳しい状況の中で、自分の生き方を被差別の側に寄り添うように探っていた卒業生の存在は、教育の原点を見るような思いがしています。市芦の建学の精神「全ての子に後期中等教育の保障を」を真っ向から叩きつづそうとする今回の動きは許せません。子どもたちの存在を抜きにした審議会の決定は許せません。真に子どもの側にたった芦屋教育の再生を強く願います。



「教員Gさん」

国・県が特色ある学校づくりを進めている今、市芦は、小規模で良いから、官公庁、市民、教師が一緒に特色ある学校づくりを目指して、新しい二一世紀の教育を創造してはどうですか。設備はあるのですから。

